

生活援助技術論

単位数（時間数）：2 単位（60 時間） 必修/選択：必修 履修年次：1 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：教授・土田幸子

科目担当者（職位・氏名）：助教・野中みつ子、助教・武田恵梨子、特任助教・山田英子

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：46

■ 授業概要

対象となる人の安全・安楽・自立・自律を保証しながら、対象者の日常生活を支援するための看護技術の意義と、援助技術の基本を学ぶ。そして、日常生活行動への支援を必要とする健康障害を持つ人を身体的・心理的・社会的 3 側面から統合して理解し、対象者に対して適切な看護実践の過程を学ぶ。さらに、常に対象者の想いに寄り添いその人らしさを考慮した看護を実践しようとするケア・スピリット（倫理的な姿勢）を養う。

■ 到達目標

1. 看護職が対象者の日常生活を支援することの意義を説明できる。
2. 日常生活における生活行動への援助の意義を説明できる。
3. 対象者に対し日常生活を支援するための日常生活行動の援助技術を、安全・安楽・自立・自律を考慮して実施できる。
4. 演習での体験（実践者・患者・観察者）を通して、対象者の日常生活を支援する上で必要な洞察力・判断力とケア・スピリットを見出すことができる。
5. 紙上事例を通し日常生活への援助を必要とする対象を身体的・心理的・社会的 3 側面から統合し全体像を説明できる。
6. 紙上事例をもとに、対象者に必要な援助を判断（アセスメント）し、看護を計画できる。
7. 立案した看護計画にもとづいて援助を実施し、評価できる。
8. 主体的に学習課題および演習に取り組むことができる。
9. 他者と協力しながら、学習課題や演習に取り組む積極的に意見交換ができる。

■ 教育内容

基礎看護学

■ キーワード

安全・安楽・自立・自律、ケア・スピリット、日常生活行動、援助技術、全体像の把握

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	オリエンテーション 自己の日常生活のアセスメント	【講義】 生活援助技術とは 授業の進め方（自己学習、実習室の使用方法）	土田
		【演習】 自己の安全で安楽な日常生活のアセスメント (グループワーク、全体討議)	
2	快適な環境を作る援助技術①	【講義】 環境調整の意義と環境の諸要素 病室と病床の環境調整の方法	
3	快適な環境を作る援助技術①	【演習】2グループに分かれて実施する 環境整備、ベッドメイキング 臥床患者のシーツ交換	共同
4			
5	活動・休息を支援する援助技術①	【講義】 活動・休息の意義と生理学的メカニズム 休息・睡眠の意義と生理学的メカニズム ・運動機能の維持・回復のための援助 ・移動・移送の援助 ・安静保持の意義	
6	活動・休息を支援する援助技術②	【演習】2グループに分かれて実施する。 ・床上運動（他動運動、自動運動） ・移動・移送（車椅子、ストレッチャー）	共同
7			
8	身体の清潔の援助技術 ①	【講義】 清潔の意義と必要性 皮膚・粘膜の生理的メカニズム 衣生活・清潔のニーズのアセスメント 清潔の援助方法の選択	土田
9	身体の清潔の援助技術 ②	【演習】2グループに分かれて実施する。 手浴、足浴、衣生活	共同
10			

11	身体の清潔の援助技術 ③	【演習】2 グループに分かれて実施する。 全身清拭、洗髪	共同
12			
13	食事・栄養の援助技術①	【講義】 食事・栄養の意義、食事に関する生理的メカニズム、病院における食事、援助方法の実際 栄養状態のアセスメント	野中
14	食事・栄養の援助技術②	【演習】2 グループに分かれて実施する。 経口摂取の援助、口腔ケア	共同
15			
16	排泄の援助技術①	【講義】 排尿・排便の意義、解剖生理学的メカニズム、 排尿・排便障害の種類、援助方法の選択 排泄のニーズのアセスメント	土田
17	排泄の援助技術②	【演習】2 グループに分かれて実施する。 床上の援助、おむつ交換、 ポータブルトイレ介助、陰部洗浄	共同
18			
19	安楽を確保する援助技術①	【講義】 体温調節のしくみ 覆法による体温管理・保温の異議 安楽の意義、安楽を確保するための援助	野中
20	安楽を確保する援助技術②	【演習】2 グループに分かれて実施する。 覆法、安楽な体位の検討、リラクゼーション	共同
21	総合演習① 対象の理解	【講義】 演習の導入 看護実践における記録、報告の意義 【演習】 グループワーク 紙上事例をもとに援助計画を立案する ・事例の全体像の把握するために必要な情報 とは（系統的な情報収集の検討）	共同
22			
23	総合演習② 援助計画の立案	【演習】 グループワーク ・必要とされる援助の明確化、期待される成果 対象の個性を考慮した援助計画の立案 （援助内容とその必要性、観察項目など） 看護技術を提供する上で留意すること 援助計画発表（全体討議）	共同
24			

25	総合演習③	【演習】2 グループに分かれて実施する。 立案した援助技術をもとに実施する。 実施した結果は記録する	共同
26	立案した援助計画に基づいた援助の実施		
27	総合演習④ 実施した援助の評価、修正	【演習】グループワーク 実施した結果をもとに期待される成果は達成されたか、修正点は何か	共同
28	<実技テスト> 紙上事例を用いた技術の統合	【演習】個別の技術チェック 実施項目：対象の身体の状況を的確に把握し、 対象の個別性を考慮した援助技術を実施する *実施要項は別途掲示する *既習の援助技術を統合する	共同
29			
30			

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

期末試験 50%、総合演習での課題 20%、実技試験 30%の結果を総合して評価する。

ただし、課題の提出状況が悪い場合は面談を行い、期末試験の受験について検討する。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・事前学習ワークシート、課題レポートのフィードバックは、コメントを付して行うとともに、質問欄に記載のあった内容については解説をする。
- ・実技試験は、試験の最後に学生個々にフィードバックを行う。
- ・期末試験は、希望者に対してフィードバックを行う。希望者は、再試験の対象、非対象に関わらず、再試験日以降2週間以内に、科目責任者へメールにてアポイントをとること。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
基礎看護学 ③ 基礎看護技術 I・II

■ 参考書・参考資料等

- ・竹尾恵子監（2019）『看護技術プラクティス 第4版』学研
- ・堺章著（2016）『目でみるからだのメカニズム 第2版』医学書院

配布資料：授業前にワークシートを配布する。演習時には、演習要項を配布する。

*授業資料およびワークシート、演習要項等はファイリングし、授業時には持参すること。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・講義授業は1時限につき、事前・事後学修時間として90分、演習授業は1項目の授業につき、事前・事後学修時間として180分程度を必要とする。
- ・事前学修：ワークシート、自己練習、指定された事前学習
- ・事後学修：自己評価、復習、自己練習

■ 担当教員からのメッセージ

授業前に詳細な日程及びグループを記載したプリントを配布し説明します。

この授業では、全ての看護技術に共通して基本となる知識・技術と看護者としての姿勢を学習します。皆さんがこれから看護学を学んでいく上で、基盤となる大切な部分です。何度でも指導にあたりますので、積極的に学習に臨み、確実に身につけてください。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 11、tsuchida★iwate-uhms.ac.jp、特に定めませんが事前に連絡して訪問してください。

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の实務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

病院での看護師業務の経験を生かし、基礎看護学に関する専門的で実践的な講義および演習を行っています。